

その海岸に盡くる所に一ノ鳥居があつた。馬場先の兩側は石燈籠と櫻樹が交互にあつて「生田の櫻」と稱せられる名勝であつたのに、惜しいかな今は其のあとかたもなくなつて、一ノ鳥居も現在の場所、即ち三宮町二丁目と三丁目の境に移建せられ、後大風の爲に破壊せられ、今「メゲ鳥居」とか「折レ鳥居」とか稱せられ、其の下部が残礎として僅かに名残りを留めてゐる。

此の上半部の圓柱笠木が金星觀測記念碑の材料となつたのである。日佛兩語で彫刻せられた此の碑を視るにつけて、過去を追懷する情禁する能はざるものがある。

因云、此の資材を諏訪山中腹に運搬するには當時としては頗る困難であつたが、神戸村上組の仲仕頭關浦清次郎氏は脊力あり宮相撲とりで、俠氣に富めるが故に奉仕的に之を諾し、大仕掛の轆轤を以て運んだといふ警異的の工事であつたと傳へられる。(つゞく)

第 3 圖



金星臺記念碑 (SI 生撮影)

## 質 疑 問 答

問ひ：天界203號附録と同第239號附録とにある恒星の直經の違ひは何故でせうか？

(NH生)。

答へ：太陽面や月や大遊星と違つて、恒星の直徑決定は技術上至難の事業であり、方法によつて結果の一致しないことは屢々あります。干涉計で計つても100倍や200倍の誤差は時々起りますし、又理論にもいろいろ違つた立場のものがあります。それに又、年々の學術の進歩による改正があります。大體は(信用すべき人の書いたものに限り)新しいものほど正しいと思つて下さい。但し、馭者エプ星だけは別です。何れ詳しく本誌上で御答へしませう。

(XY)

問ひ：草場氏の“ボン星圖改正版”といふのは賣り出されてゐますか？(SS生)

答へ：あれは未だ原圖が完成してゐませんから、全く手に入りません。(K)